ISSN 1880-585X

sendai-city chronicles communication paper.

せんだい 市史通信

第32号
仙台市博物館
市史編さん室

昭和30年代に撮影された榴ケ岡釈迦堂(写真提供 写真・ミナカワ)
釈迦堂はこの後、宮城県図書館建設のために同地から孝勝寺(宮城野区榴岡)へ移築

孝勝寺に移築された釈迦堂
手前は、幼い綱村を抱く三沢初子像

せんだい 今 昔
お釈迦さま御災難顛末

時は元禄11年(1698)8月10日、4代藩主伊達綱村の治世のこと。榴ケ岡釈迦堂の御本尊である釈迦像が盗まれるという事件が発生しました。これを知った綱村の驚きは、さぞや大きなものだったでしょう。なにしろ、このお釈迦さまは、伊達騒動の渦中に幼くして藩主となった綱村を護り慈しんでくれた亡き母・三沢初子の持仏だったのですから。

事件発生の翌朝、各藩境の番所では人留めをしての密かな捜査が始まり、釈迦堂の管理をしていた孝勝寺ではお釈迦さまの無事を願う祈禱が行われます。それから4日を経た15日、二軒の両替屋から、相次いで情報が入りました。南町の両替屋が言うには11日の早朝、大町の両替屋が言うには11日の朝飯後、いずれも一人の男が、仏像の付属品のような金物を持って店にやってきたとのこと。そうして17日には、国分町の両替屋から「13日に塩竈の久之丞がやってきて、仏像の蓮華座を金に換えていった」という、お釈迦さま盗難事件につながる決定的な情報がもたらされます。

事件の捜査を任された町奉行の坂元重隆は早速、徒目付(かちめつけ)や代官らとともに塩竈へ赴き、久之丞を捕らえます。ですが久之丞は、自分は権三という男に頼まれて蓮華座を両替しただけで、お釈迦さまのありかについては何も知らないとの一点張り。坂元は徒目付に家宅捜査を任せ、自身は谷地小路(若林区東七番丁周辺)に住む権三を捕らえるために、久之丞を連行して城下へ戻りました。

坂元が谷地小路にある権三の家に向かうと、そこに権三の姿はありません。坂元はすぐさま城下各所に探索の手を回します。そしてついに陸奥国分寺(若林区木ノ下)の林で権三を発見、召し捕りました。ですが、犯人を捕まえることができても、お釈迦さまが行方しれずのままでは、真の解決とはなりません。

その頃、塩竈の久之丞の家で家宅捜査を続けていた徒目付もまた、お釈迦さまを発見できずにいました。そんななか、捜査に加わっていた塩竈の町人が、火棚に使われている竹の束に目をとめます。その竹の一つの切り口を覗き込むと、なんとそこに、お釈迦さまが隠されていたのでした。このお釈迦さまは、三沢初子が自身の結髪の中に入れて御守りとしていたもので、2cmほどの大きさだったそうです。

こうして8月18日、盗難事件の主犯権三、共犯久之丞の犯行は明白となり、お釈迦さまは無事、藩主綱村の元へもたらされました。

さて、以上は、綱村時代の仙台藩の公式記録『肯山公治家記録』によって事件の概要を記したものです。政治上の重要事項が書き連ねてある記録のなかにあって、この盗難事件の顛末に費やされているのは9ページ分。しかも、その書き口には、講談調とも感じられるほどの軽快さがあります。

この破格の紙数と活き活きとした描写は、綱村が盗難事件に非常に大きな衝撃を受けたこと、ひいては、それほどの衝撃を受けるほど、母に対する綱村の愛情が深かったことを物語っているのかもしれません。

引っ越しする仏さま

その土地の人びとに祀られ、暮らしのなかに溶け込んでいるさまざまな仏さま。
そんな仏さまも、引っ越しを余儀なくされる場合があります。
伊達政宗が仙台の姿を形づくった頃に起きた、仏さまの引っ越し話を紹介します。

1 賢聖院二十三夜堂の得大勢至菩薩 郡山北目→北目町

青葉区に北目町という地名があります。太白区郡山にも北目という地名があります。これは、かつて郡山北目に暮らしていた人びとが北目町に移り住んだという歴史を、今に伝える縁なのです。

伊達政宗が仙台城築城に着手するまで、現在の青葉区北目町を含む、後に仙台の城下町となる地域は人家もまばらで、ほぼ野原といってもよい状態でした。そこに新しい道や屋敷の建設工事が始まり、同時に政宗の家臣たちや商工業者たちの移住が進められます。この時に移住してきた商工業者の中心は、米沢、岩出山と伊達氏に従って移ってきた人びとでした。ですが彼らのほかにも、近隣から移住してきた人びとがいます。そのひとつが、北目城下に暮らしていた人びとです。

北目城は現在の太白区郡山にあった、室町時代から続く大きな城でした。城主は何度か代わって、最後は政宗が支配するところとなり、関ケ原合戦の時には、西軍側である上杉軍の白石城を攻略するための軍事拠点となった城です。その城下集落に住み、物資の運搬を生業とした人びとが、政宗の命によって仙台城下に移住し、北目町を作ったと考えられています。そしてその時、古くから北目城下にあって、土地の人びとの信仰を集めていた得大勢至菩薩も、一緒に移住したのでした。

北目町の検断を務めた関口家の由緒書によると、関口家の先祖は慶長6年(1601)から北目町に住んでいたとありますから、仙台の城下町形成の早い時期に、北目城下の人びとの移住が行われたようです。新しい城下町建設に伴う集団移住は、さぞ騒々しい大引っ越しとなったことでしょう。ですが、そこには、新しい時代が始まるという活気に満ちた賑々しさもあったはずです。期待に胸を膨らませる北目の人びとを見守りつつ、仏さまも新天地へと引っ越してきたのでした。

得大勢至菩薩像と賢聖院二十三夜堂
毎月の縁日23日、正月三が日・どんと祭14日、7月22日・23日の大祭に、御開帳が行われる。

2 満福寺毘沙門堂の毘沙門天 郡山北目→荒町

甲冑を身につけた姿で表される毘沙門天は、仏教の世界観で、世界の中心にそびえ立つ須弥山の四方を鎮護する四天王のうち、北方を護る神です。そのため武神・軍神として、武士たちから厚く信仰されました。満福寺(若林区荒町)の毘沙門天もまた、多くの武将から、深い崇敬を集めたといわれています。

この毘沙門天の由緒を『満福寺所蔵略縁起』などでみると、もとは奥州藤原氏3代秀衡の持仏で、岩手県平泉の御堂に祀られていたとのこと。その後、奥州藤原氏の後裔を称する粟野氏の持仏となります。粟野氏は戦国時代、現在の仙台市南東部一帯に勢力を張り、北目城を居城としました。この時、毘沙門天も北目城下の隣接地にある御堂に安置され、戦国の世を生きる粟野氏から数々の武運を祈願されたものと考えられます。そして、伊達政宗がこの地を支配するようになると、毘沙門天は政宗の祈願も受けるようになりました。

慶長5年、上杉軍と戦うため北目城から白石城へと出陣する政宗は、毘沙門天に戦勝を祈願し、その願いが叶ったら、御堂を新しく建立すると誓いました。政宗はこの戦に勝利を収めたのですが、良い場所がないとの理由から、御堂建立はなかなか実現しません。仙台城下荒町にようやく仮堂が作られたのは寛永3年(1626)、毘沙門天は四郎丸から荒町へと、26年越しの引っ越しを果たします。しかし、本堂の完成までには、そこからさらに17年もの歳月を待たされました。

このように、約束の実行を大幅に延期された毘沙門天ですが、引っ越し先の荒町は、政宗晩年の居城若林城造営に伴う城下町づくりの西北の基点となった場所。須弥山の北方を守護する毘沙門天は、政宗の隠居所の、西北方を守護することになったのです。

毘沙門天像と満福寺
明治37年(1904)に起きた火災のため、創建当時の御堂は焼失。この時、毘沙門天像も火を受けた。
12年に1度、寅年の8月1・2日の大祭に、御開帳が行われる。

3 満蔵寺観音堂の千体仏 青葉山→上飯田

青葉山には、伊達政宗が仙台城を築城する前に、千代城という城がありました。その名は、城のそばに千体の仏像が安置されていたことに因んでおり、もともとは「千体」であった文字を、のちに「千代」に改めたという伝承があります。さらに政宗によって、現在の市名ともなる「仙台」に改められました。

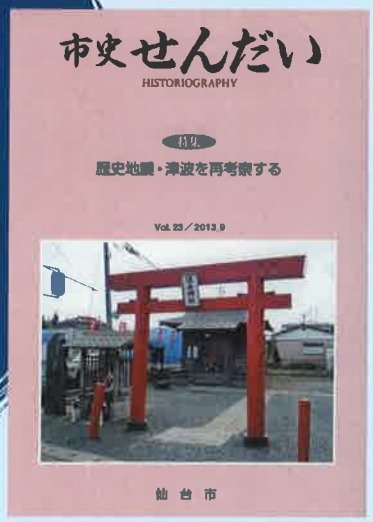
さて、千代城の名の由来となった千体仏は現在、青葉山にはありません。慶長6年の仙台城築城の際に、または寛永13年(1636)の政宗死後に、青葉山から移されたようです。大満寺虚空蔵堂(太白区向山)の436軀、仙台大神宮千座霊神祠(青葉区片平丁)の704軀、満蔵寺観音堂(若林区上飯田)の530軀など、江戸時代から伝わる千体仏のうちのいくつかが、青葉山から移された千体仏ではないかと言われています。

しかし、素朴な造りの千体仏は、時代を重ねるとともに破損してしまうものが多く、政宗が仙台城を築城する以前から青葉山にあった古い千体仏が、現在まで無事に伝わるのはまれなこと。そんななか、満蔵寺に伝わる千体仏の何軀かは、その姿形から、慶長年間より古い時代の制作とみられ、青葉山にあった千体仏である可能性が非常に高いものです。

木々深く繁る青葉山から、水田広がる上飯田へと引っ越してきた仏さまたちは、その平らかな景色を眺めて「ほう」と、一刀で刻まれた目をさらに細めたかもしれません。

千体仏像と満蔵寺観音堂
千体仏像は満蔵寺の本尊・千手観世音菩薩像の御堂に、一緒に祀られている。
本尊の御開帳は行われていないが、千体仏像の拝観は、満蔵寺に申し込めば可能。

市史編さん事業の機関誌
「市史せんだい」は、
郷土の身近な話題を
取り上げた特集記事をはじめ、
多彩な論文や史料紹介など
みどころ満載です。



最新刊 「市史せんだい Vol.23」

特集では、過去に仙台平野を襲った貞観および慶長の地震・津波被害の規模を再検討し、従来の歴史地震・津波研究に一石を投じる論考を紹介。そのほか、中世初頭の八幡荘に関する論考、仙台藩最後の奉行和田織部についての研究、史料紹介「仙台城等畳数調」、伊達政宗文書補遺も掲載。 A5判 132頁 500円

左：多賀城跡と宮城野区沼向遺跡の位置関係 ／ 右：沼向遺跡の貞観津波痕跡。白い火山灰層の2層下に津波で運ばれた砂の層が見える
（写真提供 仙台市教育委員会文化財課）

既刊の主な内容

Vol.9 特集 まちを守る
孫兵衛堀と四ツ谷用水／「伊達治家記録」の刑罰記事／明治期に於ける仙台市の水害 など A5判 124頁 900円

Vol.10 特集 地元学の現在とこれから
特集のほか 奥州伊達氏の系譜資料について／仙台の千体仏／仙台城本丸跡と政宗の仙台城 など A5判 134頁 900円

Vol.11 特集1 仙台と国民体育大会 特集2 伊達吉村の時代
仙台市におけるスポーツの流れ／歌人 伊達吉村／藩札と鋳銭 特集のほか 大崎八幡宮の壁画 など A5判 136頁 900円

Vol.12 特集 仙台の燃料事情
仙台の燃料関係略年表／薪炭の需要と入会地争論／仙台地方の木流し／亜炭さまざま など A5判 128頁 900円

Vol.13 特集 仙台の書籍をめぐる事情
仙台の出版事情／仙台CIE図書館と仙台アメリカ文化センター 特集のほか 伊達政宗の署名 など A5判 128頁 900円

Vol.14 特集 仙台の用水と土地改良
六郷堀の近世漁業関係史料／仙台市域における水利とため池の現状 特集のほか 綱宗の不作法と忠宗 など A5判 128頁 900円

Vol.15 特集 仙台の合併史
政令指定都市仙台市の区名選定に関する資料／仙台市と宮城郡七北田村荒巻・北根の合併 など A5判 128頁 800円

Vol.16 特集 仙台・戦中戦後の子どもたち
里山地域と田園地域の子どもたち／『理科の教室』について 特集のほか 新発見の米軍撮影写真 など A5判 120頁 700円

Vol.17 特集『資料編 伊達政宗文書』の刊行を終えて
政宗の朝鮮渡海と兵粮船／伊達政宗慶長十四年の参府／政宗・忠宗両代に使われた印章 など A5判 122頁 700円

Vol.18 座談会 戦中戦後の川内付近
座談会のほか 七種連歌会の運営／仙台付木／入生田康欣慶応二年日記抄(二) など A5判 128頁 700円

Vol.19 特集 政令指定都市20年あれこれ
特集のほか 女子教育者戸板関子の生涯と業績／会津藩征討と京都詰仙台藩士 など A5判 128頁 700円

Vol.20 特集 仙台への道 仙台からの道
戦国時代の道と城／関山街道・落合橋・嶺渡り／明治初年の奥羽横断道路／七北田川下流域と木道社 など A5判 132頁 500円

Vol.22 特集 東日本大震災と地域史の再発見
レスキュー資料の紹介／文献史料からみた貞観地震に関する一考察／仙台市立中野小学校所蔵スギ円盤標本の修復と年輪年代学的解析／震災がよみがえらせた古地形
特集のほか 中在家南遺跡出土の高坏／内務省時代の仙台市一般会計臨時部の経費動向／蘊蓄録 など
A5判 130頁 500円

※Vol.1～8・21は完売しました ※お求め先 仙台市博物館ミュージアムショップ

仙台の歴史を掘り下げる
「仙台市史」好評発売中！

◎今春刊行予定
『特別編9 地域誌』
仙台市域となった合併旧市町村の歴史を紹介

通史編／3,000円(本体2,858円)
資料編／4,000円(本体3,810円)
特別編／6,000円(本体5,714円)
※板碑のみ5,000円(本体4,762円)
1冊ずつお求めになれます

通史編 1原始 ※改訂版とセット販売になります 2古代中世 3近世1 4近世2 5近世3 6近代1 7近代2 8現代1 9現代2

特別編 1自然 2考古資料※完売しました 3美術工芸 4市民生活 5板碑 6民俗 7城館 8慶長遣欧使節

資料編 1古代中世 2近世1藩政 3近世2城下町 4近世3村落 5近代現代1交通建設 6近代現代2産業経済 7近代現代3社会生活 8近代現代4政治・行政・財政 9仙台藩の文学芸能 10伊達政宗文書1※完売しました 11伊達政宗文書2 12伊達政宗文書3 13伊達政宗文書4

県内主要書店、仙台市博物館でお求めになれます。
配送をご希望の方は、電話・FAXで㈱宮城県教科書供給所へお申込みください。

発 売 元／㈱宮城県教科書供給所
〒983-0034 仙台市宮城野区扇町一丁目6-3
TEL 022-235-7181 FAX 022-235-7183
お問合せ先／仙台市博物館市史編さん室
〒980-0862 仙台市青葉区川内26
TEL 022-225-3074

せんだい市史通信 第32号
発行年月日／平成26年2月28日
編集・発行／仙台市博物館市史編さん室 TEL／022-225-3074
〒980-0862 仙台市青葉区川内26 URL http://www.city.sendai.jp/kyouiku/museum

このリーフレットはリサイクルできます。「雑がみ」へ分別しましょう。